

特色ある学校

もの言わぬものがもの言うものづくり

愛媛県立今治工業高等学校長 渡邊 郁雄

1. はじめに

愛媛県では、平成20年度から3年間文部科学省と経済産業省が連携したものづくり人材育成事業に「地域産業の担い手育成プロジェクト」として、4校（機械系学科）において取り組んだ。そして、その成果をレガシーとした、県単独事業である

- 「高校生地域産業担い手育成事業」
(H23～H25)
- 「次代を担う地域産業技術者育成事業」
(H26～H28)
- 「地域産業スペシャリスト育成事業」
(H29～R元)

に取り組んできた。今年度から

- 「えひめ次世代マイスター育成事業」
に取り組んでいる。

今回、「特色ある学校」の原稿依頼をいただいた。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は十分な取組ができていないので、昨年度取り組んだ「地域産業スペシャリスト育成事業」を紹介させていただく。

2. 本校の概要

本校は、海事都市である今治市に昭和17年に今治市立工業学校として設立され、今年度創立78周年目を迎えた。特徴としては、地場産業である造船とタオルに関係した機械造船科と繊維デザイン科が設置されていることである。

現在、機械造船科、電気科、情報技術科、環

境化学科、繊維デザイン科の5学科、生徒515名（定員600名）の学校で、うち、女子生徒は69名在籍している。例年、卒業生の約8割が就職し、うち7から8割が県内に就職している。大学進学は数名である。

今年度、「ものづくりから人づくりへーいい汗をかこうー足もとをしっかりと見つめ、広い視野と深い思考で、今を生きよう」の努力目標を掲げ、地学地就を念頭に、豊かな心をもった実践的な技術者の育成に努めている。

3. 「地域産業スペシャリスト育成事業」の取組

(1) 目的

本事業の目的は、○地域や産業界と連携した実践的な取組を通して、専門分野の卓越した技術・技能を身に付けさせること、○県内企業への理解を深める取組を通して、将来、地域産業を支える専門的職業人を育成することにある。

(2) 内容

ア 企業との連携の強化を図る取組

マッチングフェア

イ 企業と連携した実践的な取組

インターンシップ、デュアルシステム、企業技術者等による匠の技教室及び講演、ものづくり研究開発、生徒体験発表会

ウ その他の効果的な取組

「体験型企業研修」等の企業見学、地域産業との連携や県内就職率向上につながる取組等

なお、事業を円滑に実施するために、校内に

「地域産業スペシャリスト育成推進会議」を設置し、年6回ほど開催をしている。

(3) 具体的な取組

ア マッチングフェア

(ア) 目的 よりよい進路選択に資するため

(イ) 実施日 令和2年2月14日

(ウ) 場所 体育館

(エ) 内容

a 対象

就職希望の2年生

b 参加企業 19社

c 方法

企業ごとにブースを設け、生徒が興味のある企業・職種の説明を、25分で交替し1人3社受ける。

なお、マッチングアドバイザー（2名）を校外から選任し、円滑な運営と改善に努めている。

d 生徒・企業担の感想・意見及び成果

【生徒】

- ・会社がどのようなことをしているか、どのようなものを作っているのか理解できた。
- ・地域の産業への理解が深まった。

【企業】

- ・自分の将来について本気で意識するようになったと思う。
- ・地域との交流ができた。
- ・若い世代に地元へ愛着をもってもらえれば幸いである。
- ・就職先を決めるきっかけになればと思う。

【成果】

- ・企業の業務内容や社員の仕事内容が理解でき、今後の進路指導に役立った。
- ・企業の技術・技能が理解でき、地元企業に深く関心をもった。

イ インターンシップ

(ア) 目的

- ・専門的な技術・技能の習得、座学の深化
- ・勤労観・職業観の育成

・働く上で求められる資質等の理解 など

(イ) 実施日（5日）

令和元年10月15日～21日

(ウ) 対象

2年生181名（5学科全生徒）

(エ) 事業所 のべ102社

(オ) 生徒・企業担の感想・意見及び成果

【生徒】

- ・学校では体験できない実習をすることができた。
- ・学校の実習で習ったことや習ったことのない体験はすごく楽しかった。特に整経とへム縫いに興味をもった。
- ・働くためにはコミュニケーション能力が必要だということが分かった。
- ・良い経験ができた、この経験を進路選択に生かしていきたい。

【企業】

- ・仕事の厳しさ、あいさつ・礼儀作法・言葉使い・コミュニケーションの大切さを学べたのではないかと考えている。
- ・挨拶や基本的な生活習慣が身に付いており、作業中は高校生らしいさわやかな行動ができていた。社員にもよい影響が出ると思うので今後も積極的に受け入れをしていきたい。

【成果等】

- ・企業における知識や技術・技能に触れることで、学校における学習や実習について生徒の理解と学習意欲が高まった。

ウ デュアルシステム

(ア) 目的 学校・企業間での相互の学び合い

(イ) 実施 令和元年10月～令和2年1月

(ウ) 対象 3年生希望者

(エ) 教育課程の位置付け 「課題研究」で実施

(オ) 各科の取組 ※環境化学科希望者なし

【機械造船科】 5・10名、7日

今治造船(株)、(株)新来島どつく

【電気科】 2・1名、4日・7日

越智電機産業(株)、(株)新来島どつく





【情報技術科】 1名, 5日 (株)リバーテック

【繊維デザイン科】 1名, 7日 楠橋紋織(株)

(カ) 生徒・企業担の感想・意見及び成果

【生徒】

- ・この実習をはじめの前と比較してすごく技術が上がり、自信ができました。スピードの調節が難しかったが、今回勉強になったことを今後に生かしていきたい。

【企業】

- ・実際に会社の施設、設備を用いて、少人数での指導ができ、生徒の技術向上が効率的に行われている。生徒にやる気も見られ、有意義な活動ができています。

【成果等】

- ・知識や技術・技能を習得させ実践的な技術力の向上が図られ、勤労観・職業観も育成できた。

エ 企業技術者等による「匠の技教室」及び講演

(ア) 目的

実技指導や講演を通して、職業人としての在り方・生き方や専門的な技術・技能を学ばせる。

テーマ	位置付	実施月	回数	学年	形態	人数
① ガス切断	A	7～11月	3	1	S	29
② 溶接	A	6～2月	4	2	S	39
③ 回流水槽	A	5～12月	5	3	S	19
④ ぎょう鉄	A	4～12月	1	3	S	19
⑤ 船殻ブロック	A	5～12月	5	3	S	19
⑥ 塗装シミュレーション	A	12/3	1	3	S	19
⑦ 電気工事	A	11/19	1	1	A	35
⑧ 講演「専門学校における情報教育」	A	11/21	1	2	A	40
⑨ 講演「企業が望む社会人とは」	A	6/18	1	2	A	69
⑩ 整経について	H	7/10	1	2	S	4
⑪ 講演「職場での安全について」	B	9/6	1	2	A	182
⑫ 講演「コミュニケーション能力の向上」	B	9/13	1	2	A	182

【テーマ】①～⑥：機械造船科, ⑦：電気科, 8：情報技術科, 9：環境化学科,

⑩：繊維デザイン科, 11・12：全科

【位置付】A：現場実習等職業に関する教科・科目の中で実施, B：「課題研究」の中で実施, H：教育課程に位置付けず実施

【形態】S：コース, 実習班, 一部, A：学科全員参加



(イ) 各科の取組

(ウ) 生徒・企業担の感想・意見及び成果

【生徒】

- ・講師の方の溶接の技術がすごかったことと、溶接の技術を近くで見て、実際に教えていただいたことが印象に残っている。
- ・より専門らしい授業を受け、刺激を受けました。プログラミングの難しさや、まだまだ知らない事が沢山あることを実感した。

【企業】

- ・本日はプログラムの初歩部分のみでしたが、そこからITの技術や将来性など、興味関心をもっていただけたら、効果的であったと思う。

【成果等】

- ・実際に技術指導をいただいた生徒だけでなく、教員が指導方法や安全教育等、実際に現場で行われている実践的な方法を学ぶことができた。

オ 「体験型企業研修」等の企業見学

(ア) 目的

地元企業, 業種理解, 地域理解に資する。

(イ) 各科の取組

学科	学年	回数	企業数
機械造船科	1	3	4
	2	2	2
電気科	1	1	1
	2	1	2
情報技術科	1	1	1
	2	1	2
環境化学科	1	2	6
繊維デザイン科	1	1	1
	3	2	2

カ 生徒体験発表会

各科において、当該学年や下級生に対して、

○2年生がインターンシップの取組の成果

○3年生が「課題研究」の成果

を発表している。

